

感染性胃腸炎（ウイルス性胃腸炎）について

2022年3月
福山市 保健予防課

感染性胃腸炎（ウイルス性胃腸炎）は、毎年、一年を通して発生していますが、特に冬季を中心に流行しています。
代表的なものとして、ノロウイルスやロタウイルスによるものがあります。

今回、もう一度、感染性胃腸炎（ウイルス性胃腸炎）について学習し、平時からの感染予防と感染拡大防止に努めましょう。

感染性胃腸炎とは・・・

- 様々な細菌，ウイルス，寄生虫による急性胃腸炎の総称
- 県知事が指定する定点医療機関のみが届出を行う 5 類感染症

【病原体】

ノロウイルス，ロタウイルス，腸管アデノウイルス 等

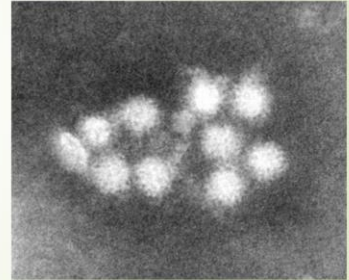
感染性胃腸炎とは，様々な細菌，ウイルス，寄生虫による急性胃腸炎の総称です。

代表的なものとして，ノロウイルスやロタウイルスによるものがあります。

また，感染性胃腸炎は，県知事が指定する定点医療機関のみが届出を行う 5 類感染症になります。

ノロウイルスの概要

- 大きさは直径約35～40nm（nm：10億分の1m）
 - 核酸（+RNA）と蛋白
 - 細胞寄生性 自己増殖能を持たない
- ↓
- ヒトの小腸上皮細胞でのみ増殖



感染性胃腸炎の原因となるウイルスの代表的なものに、ノロウイルスがあります。

ノロウイルスは、ヒトだけに感染するものです。
口から侵入し、下痢や嘔吐などの症状を引き起こし、
ヒトの小腸で増えるウイルスです。

大きさは、直径は約35～40nm（ナノメートル）で、電子顕微鏡でなければ
観察できません。

ノロウイルスの特徴

- 冬期に多発する。
- 乳幼児から高齢者まで感染する。
- 増殖が難しい。→血清型，感染等が不明。
- 効果のある薬剤はまだない。
- 症状消失後もウイルスを排出する。

ノロウイルスの特徴は、大きくわけて次の5つがあります。

- ・1つめ，
一年を通して発生は観られますが，毎年，秋から冬にかけて発生件数が増加する傾向があります。
- ・2つめ，
乳幼児から高齢者まで，年代に関係なく感染します。
- ・3つめ，
ノロウイルスは増殖が難しいため，環境での生存性や消毒剤の有効性を十分検査することができていません。

ノロウイルスは，類似した代替ウイルスの実験結果から，消毒剤の有効性を推測しています。その結果，次亜塩素酸ナトリウムを使用することが推奨されています。使用する濃度は，消毒するものにより異なります。

- ・4つめ，
特効薬はなく，症状に対する治療が中心となります。
- ・5つめ，
ノロウイルスは，症状が治まってからも1週間程度，ふん便中に排せつされます。

ノロウイルスの抵抗性

- 感染力が強い → 少ない量で感染する。
- pH 3 以下の酸性に強い → 胃を通過。
- 消毒 → **70%アルコールにも強い。**
- 熱に強い → 60℃ 30分で失活しない。
85～90℃ 90秒間以上の加熱で不活性化

つぎに、ノロウイルスの抵抗性についてです。

ノロウイルスは感染力が強く、少ない量で感染します。
また、酸に強いので、胃を通過します。

アルコール消毒では、効果が充分ではありません。

さらに、熱にも強く、85～90℃ 90秒以上の加熱で不活性化します。
(60℃ 30分の加熱でも感染性を保持しています。)

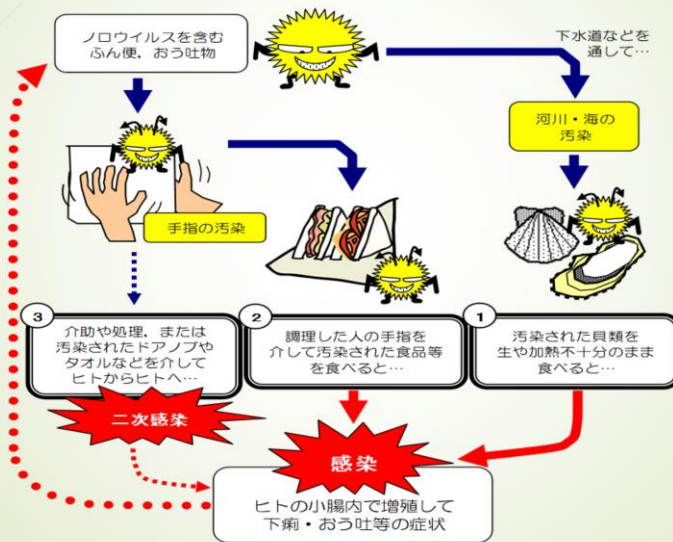
ノロウイルスの感染経路

- ① **食品を介して感染：**
ノロウイルスに汚染された食品（二枚貝等）や水，調理従事者の手指等を介して食品などを汚染。
- ② **ヒト－ヒト感染：**環境，表面への汚染，接触。
- ③ **飛沫・塵埃感染：**感染者の吐物や便の処理が不十分で乾燥して埃とともに空中に浮遊し，これを吸入。

ノロウイルスの感染経路は，基本的には経口感染ですが，大きく3つに区分することができます。

- (1) 食品を介しての感染
(ノロウイルスに汚染された食品や水を摂取することによる感染)
汚染経路によって，つぎの2つに分けられます。
 - ① ノロウイルスに汚染された食品(カキ等の二枚貝等)や飲料水を生水または加熱不十分の状態で摂取する場合
 - ② 調理中に調理従事者の手指等を介して食品が汚染され，それを摂取する場合
- (2) 接触感染
感染した人の糞便や嘔吐物に触れ，手指等を介してノロウイルスが口から入る場合や，感染した人の手指等に付着したノロウイルスがドアノブ等の環境を汚染し，それに接触した手指等を介してノロウイルスが口から入る場合です。
- (3) 飛沫・塵埃感染
飛沫感染や塵埃感染は主に嘔吐物を介して起こります。
嘔吐物が飛び散り，その飛沫が口から入る場合やおう吐物の処理が不十分のため，それらが乾燥してチリやほこりとなり空気中を漂い，ノロウイルスとともに口から入る場合が挙げられます。

ノロウイルスの感染経路



今, 説明しました感染経路の流れを現した図です。

ノロウイルスの臨床症状

- 主症状：下痢（水様性の下痢便），腹痛
嘔気，嘔吐
- その他の症状：発熱，頭痛
- 潜伏期間：24～48時間
- 治癒：1～2日後に治癒し，後遺症は残らない

つぎに，ノロウイルスに感染した時の臨床症状についてです。

主な症状には，下痢（水様性の下痢便），腹痛，嘔気，おう吐があります。

その他には，発熱（一般的に軽度で37～38℃），頭痛がみられることがあります。

潜伏期間（感染から発症までの時間）は24～48時間です。

通常は，これらの症状が数日続いた後，治癒し，後遺症は残りません。

感染予防の基本は手洗い

目的：手指を介した二次感染の予防

施設利用者・職員ともに、手洗いをきちんと行うことが感染予防の基本。日常的に手洗いを習慣づけることが大切。

<手洗いのタイミング>

○施設利用者

外出後、排泄の後、調理や食事の前

○職員は1ケア1手洗いが基本

- ・食事の介助の前
- ・排泄介助等汚物にふれた後
- ・介助内容を変える前
- ・手袋をはずした後 など

●感染予防の基本は手洗いです！！

- ・ノロウイルスの感染経路には、食品を介して感染する場合と、感染者の糞便やおう吐物に含まれるウイルスによって、ヒトからヒトへ感染する場合があります。

施設利用者、職員ともに、日常的に手洗いを習慣づけましょう！！

- ・特に高齢者施設等で業務に従事されている方は、1ケア1手洗いを日常的に習慣づけていただくことが大変重要です。



これは、「日本食品衛生協会」が示している手洗いの手順です。

2回手洗いが効果的です。

きちんと細部まで手洗いできているか確認してみましょう！！

汚れが残りやすいところ・・・

- ・指先
- ・指の間
- ・親指の周り
- ・手首
- ・手のしわ



手洗いの前の準備

- ・爪は短く切っていますか。
- ・時計や指輪をはずしていますか。

手指で汚れが残りやすいところを図に示します。

指先, 指の間, 親指の周り, 手首、手のしわ・・・

これらの部分は、特に意識して丁寧に洗いましょう！！

(様式3)

作業チェック表

記入年月日： 年 月 日

記入者：

内 容		チェック欄
利用者の健康管理	平常時の健康状態を把握している。	
	有症者の状況を、健康調査月報に記録し把握している。	
	有症者の状況を、主治医に相談する等の対応ができています。	
	同じ様な症状のある利用者が1割以上の場合の対応ができています。	
職員の健康管理	職員全員の健康状態を把握している。	
	職員の手洗いは、日頃から徹底している。	
	職員に症状のあるヒトがいる場合、目録以上の手洗いを実施している。	
	職員に症状のあるヒトは、食品を取り扱う業務をしていない。	
手洗い	職員の家族に症状がでた場合の対応はできています。	
	利用者の手洗いができています。	
	職員は、「1ケア1手洗い」を実施している。	
	職員の手洗いの方法は、きちんと行われている。	
排出物の処理	ノロウイルス感染が疑われる入所者のおむつ交換時には、1回ごとに手袋を交換している。	
	交換したおむつは、専用の袋へ入れて処分している。	
	手袋をはずした後の手洗いができています。	
	おう吐物の処理が適切にできています。	
消毒	トイレ・ポータブルトイレの洗浄・消毒がきちんとできています。	
	汚れたリネン類の消毒・洗濯がきちんと行われている。	
施設	施設の消毒がきちんと行われている。	

※この作業チェック表は、福山市保健所のホームページにアップしている「ノロウイルス対応マニュアル（施設編）」のP24に掲載されています。

福山市保健所のホームページにアップしている「ノロウイルス対応マニュアル（施設編）」の24ページに“作業チェック表”が掲載されています。

このチェック表をもとに、施設利用者の健康管理や職員自身の作業項目ごとの注意点を具体的にひとつひとつ確認して、チェックしていくことで施設全体の状況を把握することができます。

予防対策の確認にもなりますので、ぜひご活用ください。

施設の消毒

消毒薬	ノロウイルス	ロタウイルス	インフルエンザ ウイルス	細菌	新型コロナ ウイルス
・ 逆性石けん	X	X	△	○	○
・ 消毒用エタノール	△	△	△	△	○
・ クレゾール石けん液	X	X	△	○	×
・ 次亜塩素酸 ナトリウム	○	○	○	○	○

○ 有効 △ 十分な効果が得られない X 無効

施設等で普段よく使用されている消毒薬とその効果をまとめた表です。

- ノロウイルスは腸管出血性大腸菌O157のような細菌や他のウイルスに比べて、加熱や消毒液に対する抵抗性が高く、エタノールなどのアルコール系の消毒はあまり有効とはいえません。有効な消毒液は塩素系の次亜塩素酸ナトリウムのみです。
- 商品によってそれぞれ濃度が異なるため、薄めて濃度を調整して使用するようになります。消毒液の詳しい作り方については、ノロウイルス対応マニュアル(施設編)のP19「4 消毒液の作り方」を参照してください。
- 感染予防のため、定期的に施設の消毒を行いましょう。
付着したウイルスは、ステンレス等の硬いものの表面では1～2日、ティッシュ、衣服、紙、ソファ等柔らかい物の表面では、8時間程度生きていると言われます。
そう考えると1日2回 朝、夕の拭き取り消毒が理想的です。

消毒場所(例): 日頃から利用者が手の触れる箇所、手すり、ドアノブ、水道の蛇口、ベッド回り、車椅子の押し手、机、イス、引き出しの取っ手など

塩素系の消毒液を使用することで鉄などの金属が錆びることがありますので、消毒後10分以上経過したら水拭きをしてください。
また、消毒液を使用する時は、十分換気をしましょう。

ふん便・おう吐物の処理

- ふん便・おう吐物を処理の際には、手指、雑巾、バケツ、洗面所等を汚染するので注意。
 - 換気のために窓等は開けておく。
 - 処理する際には、**マスク・使い捨て手袋**をする。
- ↓
- おう吐物はペーパータオル等で拭き取る。
 - 床は**0.1%次亜塩酸ナトリウム溶液**をしみこませたペーパータオルで浸すように拭く。
- ↓
- 次亜塩酸ナトリウムは腐食性があるので、拭き取り後、10分程度待つて水拭きをする。

つぎに、ふん便・おう吐物の処理方法についてです。

- ・下痢、おう吐等の症状がある利用者がいる場合、何らかの感染の可能性もあるため、平常時よりも頻繁に消毒が必要です。特に有症状者が施設内でおう吐した場所とその周辺や使用したトイレの消毒が重要になります。
- ・ノロウイルス感染者のふん便やおう吐物には1gあたり、1,000万個～10億個ものノロウイルスが含まれていることがあり、これが感染源となって二次感染を引き起こすことが少なくありません。また、ノロウイルスは、症状回復後も1週間程度、ふん便中に排泄されます。
- ・ふん便やおう吐の処理の際には、使い捨て手袋を使用しましょう。また、飛び散る恐れがある時はさらにマスク・予防着・エプロン等を着用してください。

おう吐物の処理については、おう吐物自体をペーパータオルで拭き取った後に次亜塩酸ナトリウム溶液をしみこませたペーパータオルで周辺部も含めて浸すようにふき取ってください。

拭き取り後、10分程度待つて、再度、水拭きし、腐食や色落ちの防止を図りましょう。

- ・具体的な処理方法については、福山市保健所のホームページに掲載してある「ノロウイルス対応マニュアル(施設編)」を確認してください。

①おう吐物は使い捨ての布やペーパータオル等で、外側から内側にむけて静かに拭き取ります。



②拭き取った物はすぐにビニール袋に入れ封をして処分します。



③おう吐物が付着していた床等は周囲を含めて0.1%次亜塩素酸ナトリウム溶液をしみ込ませたペーパータオルなどで浸すように拭きます。



④次亜塩素酸ナトリウムは腐食性があります。鉄などの金属は錆びることがありますので、拭き取り後10分程度待って水拭きをします。



●おう吐物処理のの説明写真です。

- ・「ノロウイルス対応マニュアル(施設編)」の11ページに掲載してあります。
- ・排泄の介助やふん便・おう吐物の処理の際、職員が二次感染を受けないよう十分注意しましょう！
- ・周囲への汚染拡大を防ぐため迅速かつ確実に行い、作業後は必ず石けんを使ってきちんと手洗いを行いましょう。

おもちゃの消毒

- 水洗い後、0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液に10分浸し、再び水で洗い流す。
- 色落ちするものや錆びたりするものは、85℃以上の熱湯に1分以上浸し、乾燥する。
- 材質の耐熱性を確認して、消毒箇所が85℃、1分以上になるようスチームクリーナーやスチームアイロンを使用して加熱することもできます。

おもちゃも手で触れるものであり、汚染されていれば二次感染の原因になります。

平常時は、週に1回程度、
有症状者がいる場合は、1日1回以上の消毒が必要です。

材質に応じた適切な方法で洗浄、消毒するようにしましょう。

職員健康調査月報(月) 1:吐き気 2:おう吐 3:

下痢 4:腰痛 5:発熱 6:倦怠感 7:咳 8:痰 様式2

No	部屋 No	名前	性別	生年月日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
					日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
例	101	福山太郎	男											1	1	3	3					56													
1																																			
2																																			
3																																			
4																																			
5																																			
6																																			
7																																			
8																																			
9																																			
10																																			
11																																			
12																																			
13																																			
14																																			
15																																			
16																																			
17																																			
18																																			
19																																			
20																																			

●「入所者健康調査月報」について

こちらは、ノロウイルス対応マニュアル(施設編)の22ページに掲載している「入所者健康調査月報」です。

日頃から、利用者や職員等の健康状態を把握しておくことが大切です。

有症状者が増えている場合は、さらに便の状態(下痢の有無・回数)・おう吐・腹痛・発熱など、日々の変化の細やかな観察が必要です。
状況によっては、速やかに、施設の主治医、嘱託医等に報告・相談してください。



★ノロウイルス対応マニュアル（施設編）

★ノロウイルス対応マニュアル（家庭編）

※福山市保健所のホームページに対応マニュアルを掲載しています。

内容をしっかり確認し，感染拡大防止に努めましょう！！

福山市では、
「ノロウイルス対応マニュアル（施設編）」と
「ノロウイルス対応マニュアル（家庭編）」を
福山市保健所のホームページに掲載しています。
内容をしっかり確認し，感染拡大防止に努めましょう。